

- 問1 江戸時代、幕府の財政再建や社会の安定を目指して行われた「幕府の三大改革」について、実施された時期が古いものから順に正しく並んでいる組み合わせを選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 享保の改革 → 寛政の改革 → 天保の改革 | 2. 享保の改革 → 天保の改革 → 寛政田改革 | 3. 天保の改革 → 寛政の改革 → 享保の改革 | 4. 寛政の改革 → 享保の改革 → 天保の改革 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
- 問2 江戸時代の大阪は、日本海側を通る西まわり航路や、瀬戸内海の航路が集まる物流の結節点でした。この地理的条件を背景に、大阪が「天下の台所」と呼ばれるほど経済的に発展した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 全国の年貢米や特産物が集積され、市場を通じて全国の物資の価格を決定する役割を担ったから | 2. 将軍の膝元として幕府の政治機関が集中し、全国の武士が消費生活を送る最大の都市だったから | 3. 五街道の起点として陸上交通が最も発達し、各地の間屋が直接商品を運ぶ拠点となったから | 4. 株仲間による独占販売が禁止され、自由な貿易によって海外の産物が大量に流入したから |
|--|--|--|---|
- 問3 江戸幕府が全国の大名を統制し、軍事行動や居城の無断修築、許可のない婚姻などを制限するために制定した、武士に対する基本的な法律を何といいますか。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-------------|-----------|----------|
| 1. 慶安の御触書 | 2. 禁中並公家諸法度 | 3. 公事方御定書 | 4. 武家諸法度 |
|-----------|-------------|-----------|----------|
- 問4 江戸時代、将軍の居住地である江戸が「将軍のおひざもと」と呼ばれたのに対し、物流や商業の中心地であった大坂（大阪）は「天下の台所」と呼ばれました。この大坂において、諸藩が自国の年貢米や特産品を運び込み、販売するために設置した、倉庫と屋敷の機能を兼ね備えた施設を何といいますか。 (2022年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 問屋場 | 2. 本陣 | 3. 株仲間 | 4. 蔵屋敷 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問5 田沼意次が推進した、商工業者を組織化する政策の背景と目的として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 商工業者の自由な競争を促すことで商品の価格を下げ、飢饉に苦しむ農民に安く物資を供給しようとした。 | 2. 商工業者に独占的な営業権を認める代わりに税を徴収し、商業の発展を利用して幕府の財政を立て直そうとした。 | 3. 外国からの輸入品が国内に流通するのを防ぐため、特定の商人にのみ販売を許可し、海外文化の流入を遮断した。 | 4. 長崎での貿易を完全に禁止するために、貿易に関わる商人の組織を解散させ、幕府による直接管理を徹底した。 |
|---|--|--|---|
- 問6 江戸幕府は、いわゆる「鎖国」体制下においても、四つの窓口を通じて特定の国や地域との交流を続けていました。これらの窓口と、交流の相手国の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|
| 1. 長崎を窓口としたロシアとの交流 | 2. 対馬藩を窓口とした朝鮮との交流 | 3. 松前藩を窓口としたオランダとの交流 | 4. 薩摩藩を窓口とした清（中国）との交流 |
|--------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|
- 問7 江戸時代中期の貨幣政策の変遷について、慶長小判（1600年頃）、元禄小判（1695年）、正徳小判（1714年）の3つの貨幣における「金の含まれる割合」の変化を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 慶長小判から正徳小判にかけて、幕府の財政難に応じて段階的に金の含まれる割合が引き下げられ続けた | 2. 慶長小判は約85%だったが、元禄小判では約57%に低下し、正徳小判で再び約85%に戻された | 3. 慶長小判は約57%だったが、元禄小判で約85%に高められ、正徳小判では再び約57%に下げられた | 4. 慶長小判から正徳小判まで一貫して金の含まれる割合は約85%のまま維持され、発行枚数のみが調整された |
|--|--|--|--|
- 問8 1639年のポルトガル船の来航禁止から、1853年のペリー来航まで約200年以上続いた「鎖国」と呼ばれる体制において、長崎の出島を窓口とした貿易の仕組みについて述べた文として、背景や目的が最も適切なものはどれですか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 日光東照宮の建立などの大規模な国内事業を優先するため、海外との交流を一時的に停止して国を閉ざすため。 | 2. 琉球王国を通じた中国との貿易ルートを拡大し、九州地方の諸大名に貿易の管理を委ねるため。 | 3. 国内の自治都市であった堺や平戸の商人に、海外との自由な取引を奨励して経済を活性化させるため。 | 4. 幕府の権威を脅かすキリスト教の影響を排除し、貿易による利益と情報を幕府が独占するため。 |
|---|--|---|--|
- 問9 三代将軍徳川家光が武家諸法度を改正した際、大名の軍事力を抑制し、幕府への服従を強いるために制度化した内容はどれですか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 年貢の徴収を確実にするため、農民に5軒一組の連帯責任を負わせる制度 | 2. 1年おきに領地と江戸を往復し、妻や子を入質として江戸に住ませる制度 | 3. 朝廷が勝手に年号を改めることを禁じ、幕府の許可を必要とする制度 | 4. 全国のキリスト教徒を厳しく取り締まり、海外渡航を全面的に禁止する制度 |
|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
- 問10 戦国時代の混乱を終結させ、長きにわたる平和な江戸時代を築いた徳川家康が、幕府を開くために行った政治的背景や仕組みとして最も適切な説明を選択してください。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 有力なキリスト教大名を保護することで、西洋諸国との直接貿易を独占し、その経済力を背景に全国を統治した。 | 2. 豊臣秀吉の制度をすべて廃止し、全国の土地を全て幕府の直轄地とすることで、大名の反乱を物理的に不可能にした。 | 3. 関ヶ原の戦いで石田三成を倒した後、朝廷から関白に任命されることで、天皇に代わって全ての政治を行う権利を得た。 | 4. 朝廷から征夷大將軍に任命されることで、全国を支配する法的・権威的な根拠を得て、江戸に政治の拠点を置いた。 |
|--|--|---|---|
- 問11 三代将軍徳川家光が定めた、大名の義務に関する記述において、江戸と領地を往復する頻度と、その対象として正しい組み合わせはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 半年ごとに往復する義務があり、すべての武士が対象であった | 2. 五年ごとに往復する義務があり、有力な農民が対象であった | 3. 三年ごとに往復する義務があり、朝廷の公家が対象であった | 4. 一年おきに往復する義務があり、全国の大名が対象であった |
|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
- 問12 田沼意次の政治において、幕府が公認を与え、特権を与える代わりに営業税を徴収した、商工業者の同業者組織を何と呼びますか。 (2019年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------|--------|--------|
| 1. 問屋制家内工業 | 2. 座 | 3. 株仲間 | 4. 五人組 |
|------------|------|--------|--------|
- 問13 江戸時代中期に杉田玄白や前野良沢らが、オランダ語の医学書である『ターヘル・アナトミア』を翻訳して出版しました。日本における本格的な西洋医学の導入の先駆けとなった、この書物の名称として正しいものを選びなさい。 (2020年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 日本永代蔵 | 2. 古事記伝 | 3. 解体新書 | 4. 蘭学事始 |
|----------|---------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 享保の改革 → 寛政の改革 → 天保の改革	18世紀前半に8代将軍徳川吉宗が行った享保の改革、18世紀後半に老中松平定信が行った寛政の改革、19世紀前半に老中水野忠邦が行った天保の改革という順序で展開しました。いずれも財政の立て直しや農村の復興を目的としていましたが、時代が下るにつれて、飢饉や外国船の来航といった内憂外患の状況が深刻化していく中で実施されました。
問2	答え 1 全国の年貢米や特産物が集積され、市場を通じて全国の物資の価格を決定する役割を担ったから	大阪は海運網の拠点であり、全国から蔵屋敷へ年貢米や特産物が集まりました。特に堂島の米市場は、日本全体の米価の基準となるほどの影響力を持っていました。このように全国の物資が集申し、流通の中心となったことから「天下の台所」と称されました。なお、政治の中心である「将軍の膝元」は江戸を指します。
問3	答え 4 武家諸法度	江戸幕府は二代将軍徳川秀忠の代に初めてこの法律を公布し、大名が幕府に無断で城を修理することや勝手に婚姻を結ぶことを禁じました。これは大名の軍事力を抑え、幕府による全国支配を確かなものにするための重要な政策でした。
問4	答え 4 蔵屋敷	江戸時代の各藩は、参勤交代の費用や生活に必要な物資を購入するための貨幣を必要としていました。そのため、全国から商人が集まる物流の拠点であった大坂に独自の施設を構え、領内から集めた年貢米や特産品を売却して現金化しました。この施設は商品の保管だけでなく、藩の役人が常駐する商取引の窓口としての役割も果たしていました。
問5	答え 2 商工業者に独占的な営業権を認める代わりに税を徴収し、商業の発展を利用して幕府の財政を立て直そうとした。	老中を務めた田沼意次は、農業中心の年貢収入に頼るだけでなく、商業の活力を政治に取り入れようとしてしました。株仲間を積極的に公認して奨励し、そこから得られる運上金などの税収を増やすことで、幕府財政の再建を図りました。また、長崎貿易においても銅の輸出を増やすなど、積極的な経済政策を展開しました。
問6	答え 2 対馬藩を窓口とした朝鮮との交流	江戸幕府は、特定の地域を通じて対外関係を維持しました。対馬藩（宗氏）は朝鮮との間で国交を維持し、朝鮮通信使の来日にも関わりました。薩摩藩は琉球王国、松前藩はアイヌ、長崎は清とオランダがそれぞれ窓口となっていました。ロシアが日本に開国を求めて接近してくるのは江戸時代後期のことです。
問7	答え 2 慶長小判は約85%だったが、元禄小判では約57%に低下し、正徳小判で再び約85%に戻された	徳川家康が定めた慶長小判は、金の含有率が約85%という質の高い貨幣でした。しかし徳川綱吉の時代、財政不足を補うために金の割合を約57%まで下げた元禄小判が発行されました。この貨幣の質改善が物価上昇（インフレ）を招いたため、後に6代・7代将軍に仕えた新井白石は、貨幣の質を慶長小判と同等の約85%に戻す「正徳の治」を行い、経済の混乱を収拾しようと試みました。
問8	答え 4 幕府の権威を脅かすキリスト教の影響を排除し、貿易による利益と情報を幕府が独占するため。	幕府はキリスト教が民衆に広まることが封建的な支配体制の妨げになると考え、布教の可能性がある国を排除しました。同時に、オランダや中国（清）との貿易を長崎に限定することで、貴重な輸入品の管理と海外情報の入手を幕府が直接コントロールすることに成功しました。
問9	答え 2 1年おきに領地と江戸を往復し、妻や子を入質として江戸に住ませる制度	徳川家光は、武家諸法度に「参勤交代」の規定を書き加え、大名に義務付けました。これにより、大名は多額の旅費や江戸での滞在費を負担することになり、蓄えを減らして反乱の資金を失わせるという目的がありました。あわせて家族を入質として江戸に住まわせることで、幕府への裏切りを防ぎました。
問10	答え 4 朝廷から征夷大將軍に任命されることで、全国を支配する法的・権威的な根拠を得て、江戸に政治の拠点を置いた。	家康は武力で全国を制圧しただけでなく、伝統的な権威を持つ朝廷から征夷大將軍という官職を授かることで、全国の大名を統制するための正当性を確保しました。これにより、軍事的な勝利を政治的な安定へとつなげ、江戸を拠点とする長期的な支配体制を構築しました。
問11	答え 4 一年おきに往復する義務があり、全国の大名が対象であった	参勤交代は、全国の大名に対して「一年おき」に江戸と領地を往復することを義務付けた制度です。この大規模な移動に伴い、東海道などの五街道が整備され、宿場町が発展するなど、交通網や経済に大きな影響を与えました。
問12	答え 3 株仲間	田沼意次は、商工業の発展に注目し、「株仲間」という同業者組織を積極的に公認しました。この組織に加入した商人には、特定の商品の販売や製造を独占できる権利が与えられ、その見返りとして幕府に税を納める仕組みが作られました。中世における同様の組織は「座」と呼ばれますが、江戸時代の中期以降、幕府や藩の公認を受けたものは株仲間と呼ばれます。
問13	答え 3 解体新書	杉田玄白らは、処刑された罪人の解剖（腑分け）を実際に観察した際、手元にあったオランダ語の解剖図が人体の構造を正確に示していることに驚きました。それまでの伝統的な医学の知識を改めるべく、苦労を重ねて翻訳を完成させ、1774年に出版されました。これが日本の近代医学の発展に大きく寄与しました。